



自称スパイの商売女を

ダマダマ 女スパイ 66
調教 777 66

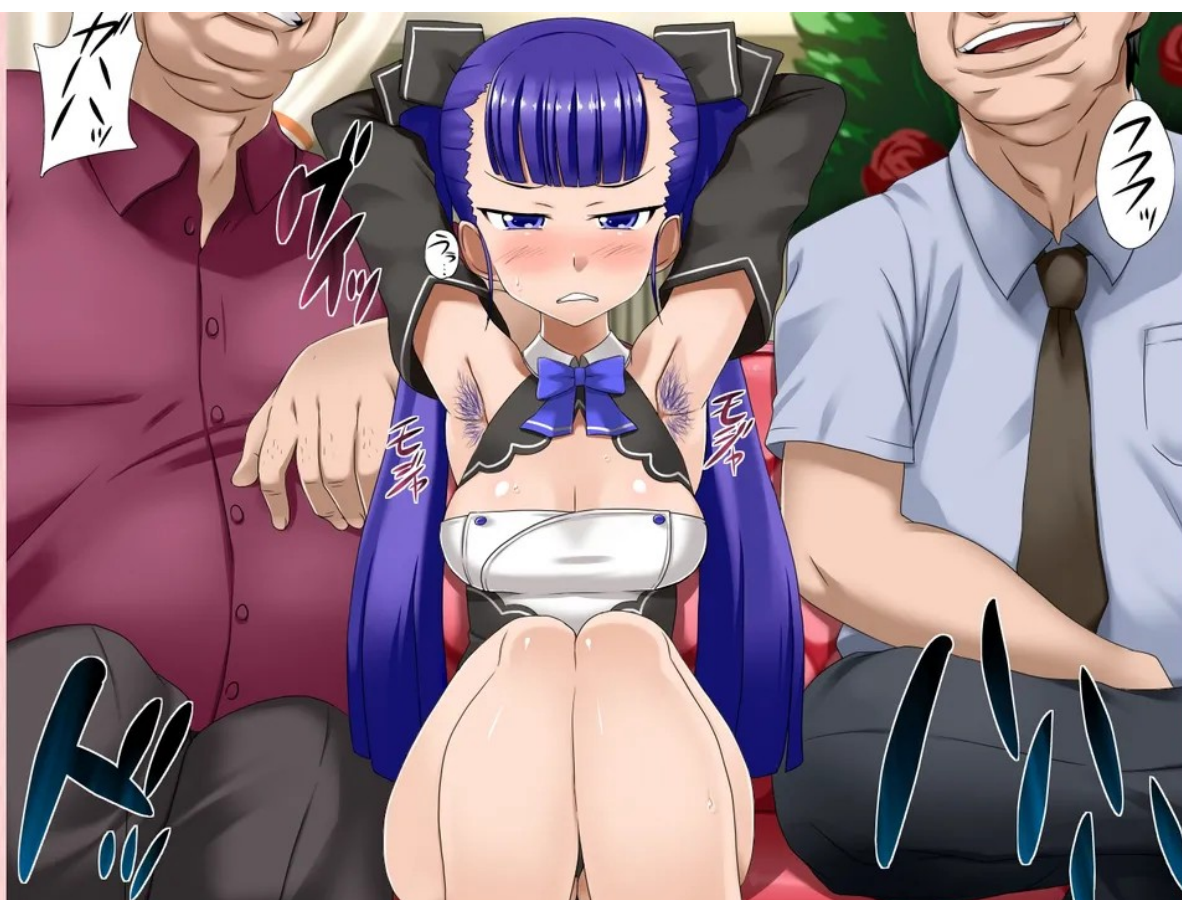
ムダ毛丸出し羞恥調教

「鈴凛ある。ほ…本日はご指名
「ありがとうございまする…。」
「いやあ、おじさんすっかり鈴
凛ちゃんの事
気に入っちゃったよ、グフフ。」



（くう…この好色オッサン達また来たあるか…。
まあ構わんある。こうなったら鈴凛の魅力で
今日こそ情報を聞き出してやるあるよ…。）

「じゃあ早速だけども鈴凛ちゃん、アレ見せてよアレ！」
「どれくらい伸びたか？グヘヘ。」
「ほらハンザイして、バンザイ！」



「わ：わかりましたある。
鈴凛の未処理ワキ毛をたっ：楽しむがいいね！」
「うわあ！モシヤモシヤじゃないか！
かわいい顔してこんなワキ毛伸ばしてちゃダメだよ。」

「おっと！おじさん手がすべっちゃった！！」
「あひゃん？！これなんす！何すべのあ内だっただろお！？」
鈴凛ちゃんくすくす♪



「サービス悪いともう指名してあげないよ。」
「そうそう。鈴凛ちゃんだって議員先生のワシ達と
ご一緒したんだろお？」

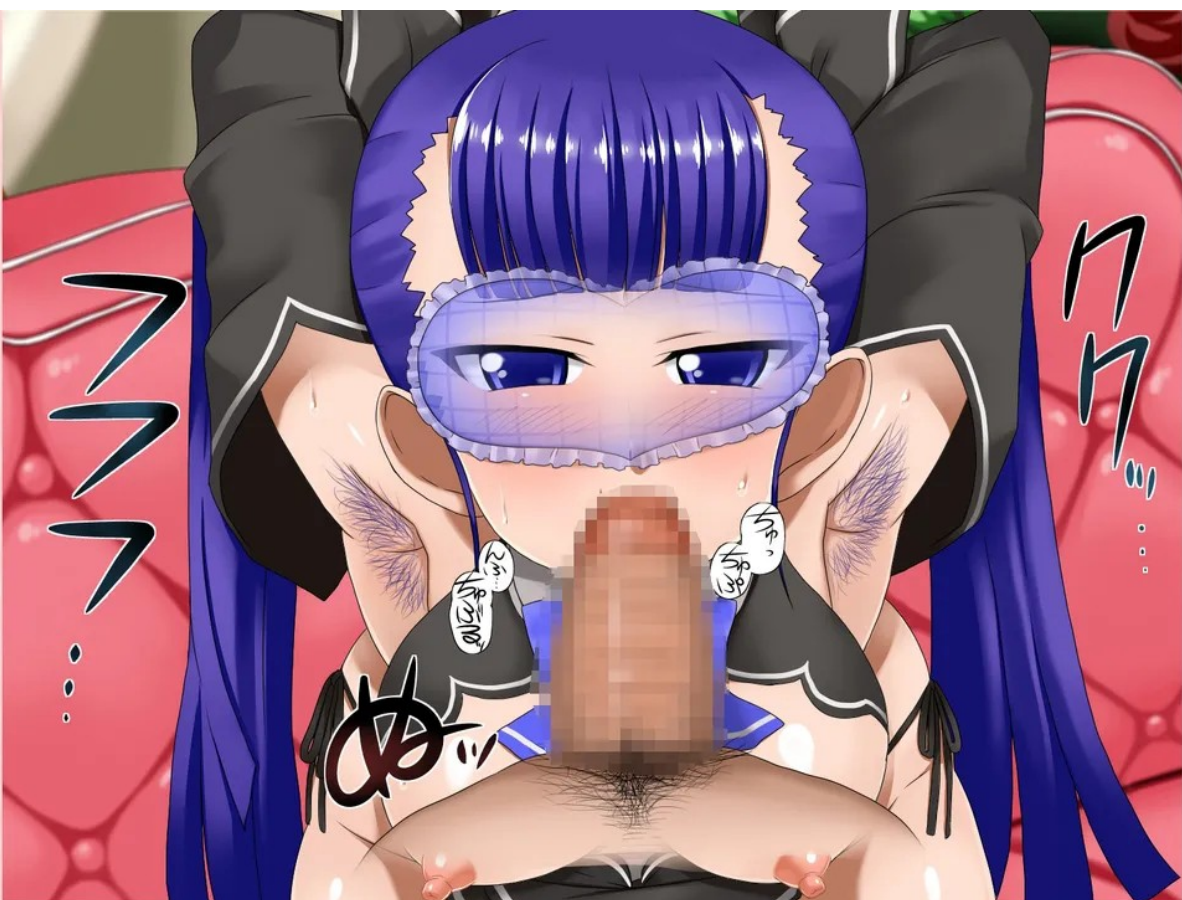
「は、はい。先生達のこといっぱい知りたいあるよ。」
（国家機密を聞き出すまでの我慢ある……。）

「じゃあ『おクチあくん』『ゲームしよつか鈴凛ちゃん。』
「な、なんで目隠しするさあるか？」
「つべこべ言わず、ささと口開けんか！
「ほれほれ！」
「…解りましたある。」



「はははは、ほりゃいくぞ！あう！あう！
「あははは、ほりゃいくぞ！あう！あう！
「特注ソーセイシだからね。噛んじゃだめだよ！
「ぶくくくく。」

「むぐっ!!」
「な、何あるかこれは?ほんとにソーセージあるか?」
「おいしい肉汁が出てくるから、口すぼめて、ちゅうちゅうしてごらん。」



「先っぽペロペロも忘れずにね♪」
「(な、なんかしょっぱいし、臭いし、先が割れてるある...?)」
「!? ま、まさかチンチンあるか!」

「おっ！解っちゃった？鈴凛ちゃんスケベだねえ！」
「それじゃあ、正解した鈴凛ちゃんにはご褒美に
ぐ特注ソーセイジの追加オーダーといくか！」



「ふむぐううううう！-！」

「遠慮せんともつと喉の奥まで味あわんか！」
「んぶっ!んぶっ!おえっ!」
「あ後がつかえんっ!」
「ああ!下ってるんだから、しっ!かりしゃぶれよ!」
「フエラチオの経験ないの?」



「まあ、よいではないか、これはこれでそそるわい!」
「ほれっ!出すぞ!ぐふふっ!」
「んぐううううううううう!」
「はははは、鼻から逆流してるぞ!下手くそ!」
「そのマヌケ面にぶっかけてやるよ!」

「次はワシのソープを馳走してやるぞ！ひひひ！」
 「はは！はは！はは！はは！はは！はは！はは！はは！」
 「口の周り陰毛まみれで、鈴凛ちゃんのワキ毛みたいにな」



「じゃあその、チン毛みたいにもじゃもじゃの」
 「ワキマン！コにもぶつかけてやるよ！」
 「オキラッ！コにっかり！手上げとけ！メス豚！」
 「すっげえン！バカ面！写メ撮っといえ！やるよ！だろ？」

「鈴凜ちゃんオンステージ♪」
「なに上がってきてるあるか？」
「せっかくカラオケリクエストしてるんだからさあ、
さっさと歌って踊れよ！」



「こ、こんな格好で出来ないがある...。」
「ははは、今更何恥ずかしいがってんの？」
「おじさん達が手伝ってあげようか...？」

「ほらほらもうミュージック始まってるよー!」
「ど、ドラ○ンレディ〜♪うっ……。」
「よっ! いそ〜♪もっ乳揺らせ! 乳!」
「サービスたいねえぞ! こっちも見せろ! ほらっ!」



「うひゃいっ!! な、ななな、何するあるか!」
「隠すなよ! ひひひ毛もじゃもじゃマンコ丸出し〜♪」
「鈴凛ちゃん!」

「もう全部脱いじまえよ！
ストリップ！ほれストリップ！
「や、やめるある！ひいいいいい」
「ははははははっ！いいねっ♪
鈴凛ちゃんすっぽんぽんってかっさ。」

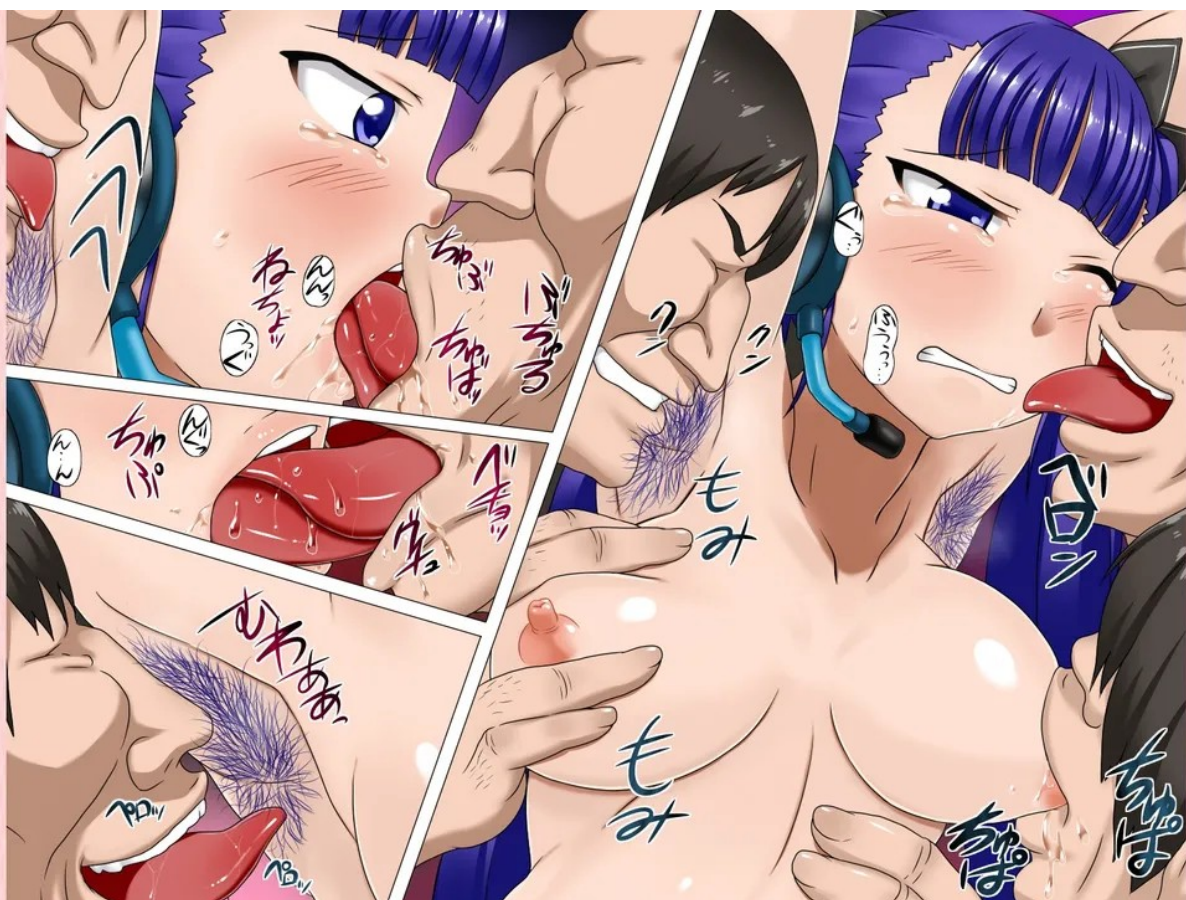


「ほらまだ曲続いてるぞ！裸踊り続けろよ！」
「くうう...こ、こんなのカラオケじゃないあるっ！
や、やってられないある！」

[illegible]

「ほらほら入っちゃうぞ、
う、歌うから、や、やめてく
「へへへ、おじさん、やさしい
全曲リクエストしちゃおっ
かなあ。」

「ほくら、鈴凛ちゃん、もつと大きく口開けて歌ってよう。」
「ちよっ！近すぎあるっ！ひゃん！どこ舐めてるあるかあっ！」



「ハハハハ、ダンスで汗かいちゃったのかなあ？」
「ワキの下じっとり湿ってるよ。」
「おじさんとキスしよっか！キス！」
「んぐむう！んッ！んうう！んむうッッッッ！」
「はあ、はあ、鈴凛ちゃんのワキ汗とっても美味しいよ。」

「上も下もこんなにもじゃもじゃにして
けしからんなあ、まったく♪」
「あっ! 心ああっ! んんう♥
そ、そっちはダメあるううう!」



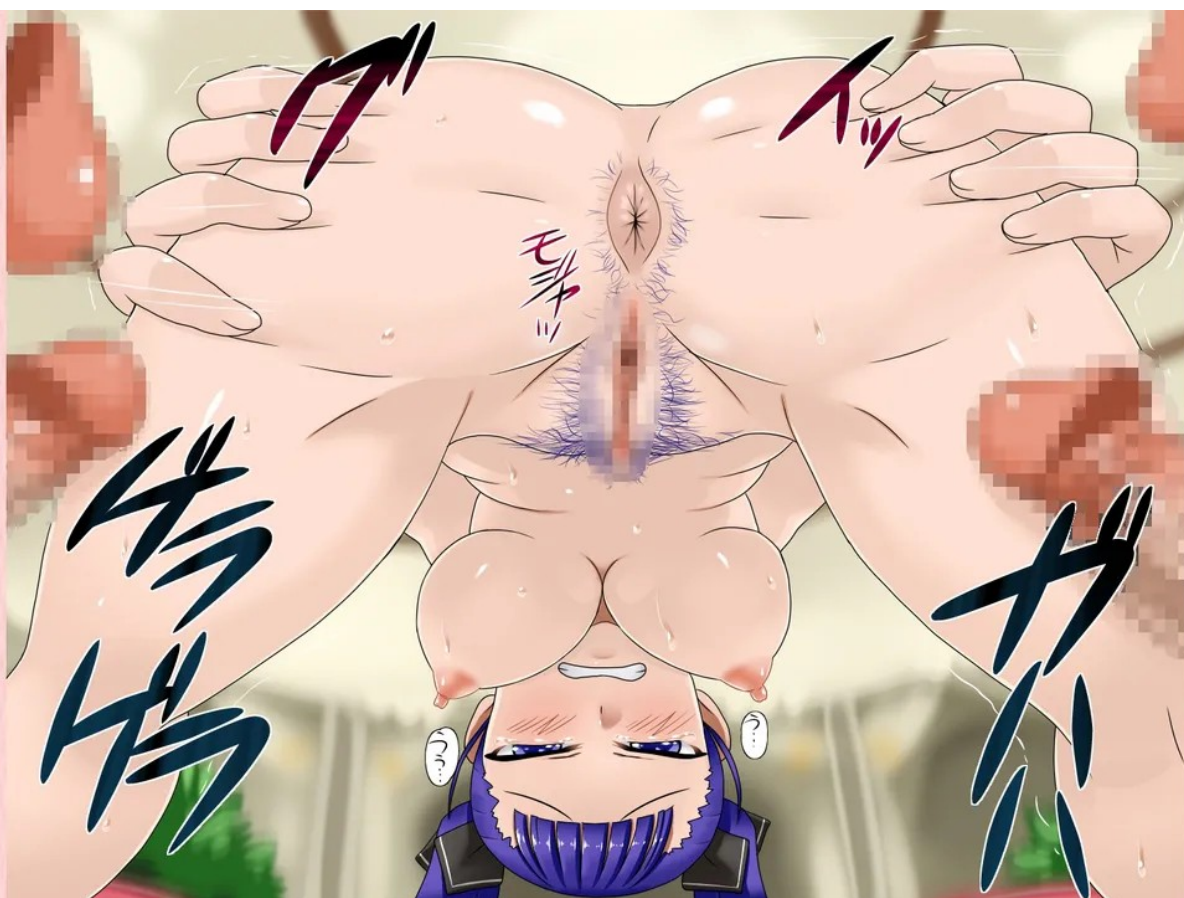
「おいおい、そこは『オマンコ』ボーボーでごめんなさいあるさ」だろ？」「ひひひっ！脱毛手伝ってやるよ！」「ひぎい！痛っ！引っ張らないで下さいあるさ。」

「鈴凜ちゃんは今ワキ毛だけじゃなくて、マン毛までボーボーだね。クククッ!」
「これケツまで穴の周りにケツ毛だらけだな。」「こりゃあクソ穴の周りケツ毛だらけだな。」



「そ、そんなことないあるっ!」
「じゃあケツ毛チェックしてやるよ!」
自分で尻肉広げてケツの穴見せろ。ほら!」

「こ、これでいいあるか？」
「はははははっ！見ろよこれ！
やつばケツ毛生えてるよ！」
「ぶははははっ！そんな汚いケツしてちゃ駄目だよ
鈴凜ちゃん。そんなんじゃ彼氏出来ないよ！」



「くうう！は、生えてないあるっ！
鈴凜のお尻はそんな汚くないね！」
「おっ！ムキになっちゃって、可愛いねえ！
ケツ毛ビツシリ鈴凜ちゃん♪」

「鈴凜ちゃん。今おじさんが引っ張ってる毛は
どこの毛かなあ？」
「ヒントはケツ穴の周りに生えてる毛だよ！」



「し、知らんあるっ！言いたくないあるっ！」
「あれえ？そんな態度とるの？」
「こりゃあお仕置きしないとダメだねえ…。ククク。」

「ケツ毛豚の分際で口答えてんじゃねえぞ！
オラツツ！」

「いぎっ！ひぎゃいっ！」
「そんなに恥ずかしいなら、
ワシらの手で脱毛してやろうじゃないか！ほれっ！」



「んいいいだあっ！ひいいい！
ごめんなさいあるっ！抜かないで下さいあるう！」
「ああ？何をだあ？」
「鈴凜のケツ毛とマン毛ですう！くひい！」

「そら！毛マンコに肉棒のプレゼントだ！」
「んひいおッ！」
「毛豚にお似合いの顔にしてやるよっ！」



「ふがああ？」
「はははははっ！」
「美人の顔を歪ませるのは興奮しますなあ。」

「んあっ！あっ！ひぎい！」
「おおっ！出る出る！」
「こんなに出的のは久しぶりだわい。」



「んふおおおおお！ふぎっ！んおおッ！」
「イヒヒヒ！豚みたいな声でよがりおって、
そら！その豚面にぶっかけてやるっ！」

This is a highly explicit anime-style illustration depicting a sexual scene between two female characters. The character on the left has short blue hair with bangs and a large black bow tied around her waist. She is shown from the side, with her head tilted back and eyes closed in a state of pleasure or unconsciousness. Her face and neck are covered in white droplets, possibly sweat or saliva. The character on the right has long, flowing pink hair and is positioned behind the first character, partially obscured by her body. Both characters have exaggerated anatomical features, including large breasts and prominent genital areas. The background is a soft, out-of-focus light green. Numerous Japanese sound effects are scattered throughout the image, such as 'めろ' (melo), 'ぐ' (gu), 'ん' (n), and 'はぁ' (haa), which typically represent moans, breaths, or sounds of arousal in manga art. The overall style is characterized by bold outlines, vibrant colors, and a focus on sensual themes.

「出た出した。ケツ毛マンコからも溢れておるわい。」
「んぶあふう……ふう……ふう……」
「これだけ出したら、孕んだかもしれんあ。」
「どれ、次はワシが鈴凛ちゃんに種付けさせてやるぞ。」

「お喋りはそれくらいにして、おチンポ啜えよつか。」
「ふむッ！」
「ワキマッ！」
「ふぐう……ふむぐう……」



「ワキ毛が擦れて気持ちいいよ。ぐふっ。」
鈴凜ちゃんは「ははは！」「まさ」に全身肉便器ですなあ！

「お。ぐふッ。」
鈴凜ちゃんは「ははは！」

「さあ出すよ。たっぶり飲んでね鈴凜ちゃん。」
「ほっ！ふくまうにうざーメンシヤンプー
塗ってあげるよんむう！」

「んんんん！！」



「ザーメンシヤンブーでワキ毛ゴシム♪」
「まーす滑りがよくなってたまりませんあ。」
「ひー！鈴のワキをほひあるう…」
おもひやになひれほひあるう…」

「そらあ！ムダ毛アナルにもチンポオーダーだ！」
「んぎいッ！相変わらいい締め付けだねえ鈴凛ちゃん
「はははッ！つぶりケツ穴ほじくってあげるよ！」
ご褒美にた



「ほら！ほら！マンコとケツ穴を交互に
突かれるのは気持ちいいだろお？」
「あひい！んあっ♥あう♥んおおっ！」
は、激しすぎるあるうー！はひいひいひいー！」

「うははッ！出る出るッ！
十年は若返った気分だよ！」
「おはッ！出る出るッ！
おはッ！出る出るッ！
んほッ！出る出るッ！
んぷッ！出る出るッ！」



「今日も寒い肉便器っぶりだねえ♪」
 「鈴嬢ちゃん！おっ！そ、外に出してくださいあるうはひい！」

「おっ、また出る！鈴凛ちゃんとなら
「おっ、また出る！鈴凛ちゃんとなら
「うう、あぐう……」
「うう、あぐう……」
「ねえ鈴凛ちゃん、いつものヤツ言ってよ！ほらッ！」



「り、鈴凛は……に、肉便器あるからな……。
「り、鈴凛は……に、肉便器あるからな……。
「あなたは……ザーメン頂いちゃうね……。
「あなたは……ザーメン頂いちゃうね……。
「鈴凛ちゃんにはおじさん達の肉便器がお似合いの
「鈴凛ちゃんにはおじさん達の肉便器がお似合いの
「かな？」
「かな？」

「ほら、撮るよ♪はいチーズ！」
「はひい！ひ…ひ…すある……。」



「すっかりお腹が大きくなったねえ、鈴凛ちゃん。」
「ミルくまで出るよ。うん、ちやて、グヒヒッ！」
「もうすっかりお母さんだねえ。グヒヒッ！」
「生まれてくる子がだれの子か、楽しみだね♪」

「鈴凛ちゃん、ワキマンコ丸出し行ってみよおか。」
「あはあ…ワキマンコ」注文
「ありがとうございますあるう……………」
「ほらっ、見てえ見てえ……………」
♥



「ほおおろろ。相変わらずメス臭いワキマンコだわい。」
「おじさんチンポ勃ってきちゃったよおろろ。ヒヒヒ。」
「この整った顔立ちとのギャップがたまりませんなあ。」
△フッフッフッ!」

「それじゃあ、鈴凛ちゃんの大好きな『チンポあ〜ん』をオーダーしてあげるよ。」
「おチンポッ! 早くおチンポちようだいッ あ〜ん♡」



「ぐふふっ! そんなにチンポが欲しいか
このメス豚め!」
「ヨダレまで垂らしおって、ほれっ!
もっとおねだりせんかっ!」

「鈴凜ちゃん、チンポおいしいっ？」

[illegible]

「よし出すぞ！ たつぷりチンポ汁ご馳走してやるよ！」
「んぷっ！ ふあああああゝゝゝ♡
んんっ！ んぷう！ ちんぽ汁きたあゝゝ♡」

「鈴凜の変態ダンスショーの始まりあるよっ♡
いっつばいおちゃんボンボシ見せこちやうんでね♪」



「よっ！待ってました！
「いいぞ！メス豚さっ♪」
「マイクロピキニ似合ってるよー鈴凜ちゃん。」

「変態エブロン姿はどうかしら？フッフッ♥」
「おっ！いいねえ！オマンコ丸出しじゃないか。」



「あはっ♥そんなに見つめられたら興奮しちゃうわ♥」
「はは！結構結構！その格好で皆さんのチンポ料理してもらいたいな。」

「ヒュウ! 鈴凛ちゃん、Vの字水着似合ってるよ!」
「当然ある。鈴凛はスパイあるからな♪」
「あなたを虜にしちゃうよ〜」
「フッフッ♡」

[illegible]

「んおおおッ♥チンポバイヴッ！イボバイヴッ♥
すごいあるうっ♥腰振りダンス見てえッ♥
鈴凛のバウにうねうね腰振りあるよっ♥んああっ♥
チンポみたいうねうね腰振りあるよっ♥んああっ♥」



「この様子じゃ、チンポ入れるとどうなるか
楽しみじゃわい！」
「次はワシらのチンポマイクで歌わせてやるとするか。」

「おじさまあ〜♡♡♡♡♡キスして欲しいあるう♡」
「ぐっ♡♡♡♡♡そうか♡♡♡♡♡ほれ♡♡♡♡♡舌だせ！」
れろれろれろ♡♡♡♡♡



「おっぱいもチュパチュパしてあげるからね。」
「ワキマシコも匂い立たせて、
鈴凛ちゃんは、いやらしい娘だねえ！ムフフッ！」

「そろそろ鈴凛のマンモマンコに
オチンポくださいるう♥」
「ハハハハっ！オマンコだけでいいのかなあ？」



「ド変態で淫乱な鈴凛ちゃんはお
他にも欲しいんじゃないの？」
「どこにオチンポ欲しくないかちゃんと言って貰わないと、
おじさん達解らないなあ。」

「ほらあ！見るあるう♡
鈴凛はもじゃツモあるう♡
お口にもじゃンポミルケくださいあるう♡マンコとお♡」



「ははは！3本もこのメス豚っさ！
おははは！鈴凛ちゃんハメしてくっさ！
おじさん！引っかけちゃうそうだよ♡
」

「はひくぞう！そらあ！
痛くて気持いいあ！
マソ毛抜かれたいっ
ちやうあるう」



「ヒヒヒッ！こんなので感じてるなんて、
鈴凛ちゃんはどうしようもない変態だねえ。」
「ひんっ！そんなのお心♥
鈴凛はパイ毛ぬきさ♥
変態スあるよ♥フツフツしてっちやう」

「ほらっ！お待ちかねのチンポだよー！」
「んほっ！おちんぽのおおっ！」
「チンポきたあうっ♪」
「鼻フックも付けようね♪」



「そら、メス豚！餌の時間だぞー！」
「フゴォ♥チンポいっばいあるうっ♥」
「フンフンもっ♥と嗅がせて欲しいあるうっ♥」

「んぶあ♥あおおっ♥ぶううっ♥」
「ちんぽ!♥あおおっ♥ぶううっ♥」
「ほんぽ!♥あおおっ♥ぶううっ♥」
「んぶあ♥あおおっ♥ぶううっ♥」



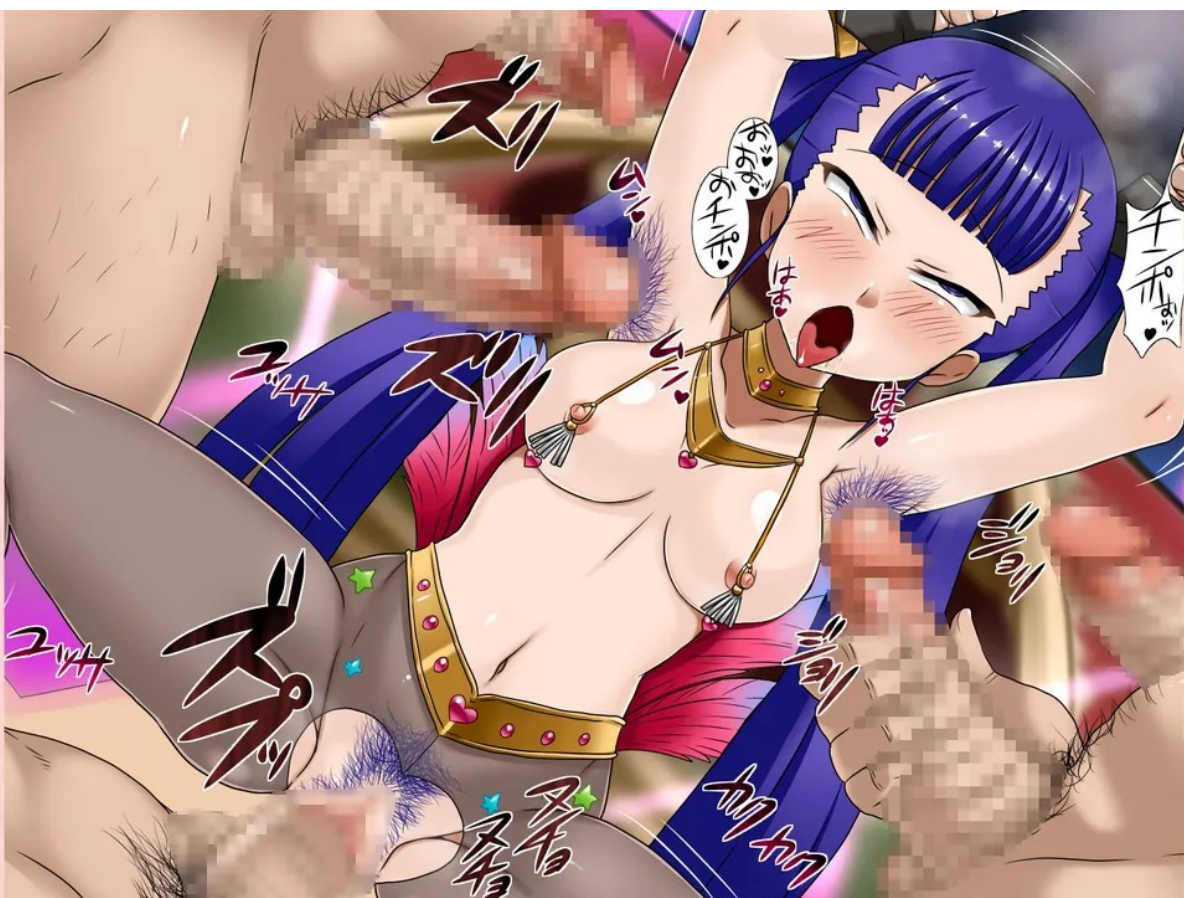
「グフッ！そんなにチンポ汁が嬉しいか？
このメス豚め！」
「嬉しいあるう♥アヘ♥もっとこの淫乱スパイに
種付けおねがいしますあるう〜♥」

「ぶひい〜ん♥もっとお♥」
「はは、まだワシらの重要機密が欲しいのか？」
「いじきたないスケベ豚スパイめっ！」
「もっくとケツ振っておねだりせんかっ！」



「ぶそ言ぶ
ひらわひ
っ！れい
♥出なん
ぶすく♥
ひそて出
っ！もし
♥こたて
ぶのっ！
ふさぶ種
おケり付
ッベ出け
！スしし
んパてて
ぶイ孕く
あがまら
あッせさ
あ！てい
♥ーやあ
るるう
！」

「今宵も鈴凛の変態サンバショーを
いっばい楽しむといいね♥」
「おっ！バカっぽくていいね。」
鈴凛ちゃんによく似合ってるよ。」
「へへへ、おじさん興奮してきちゃったなあ。」



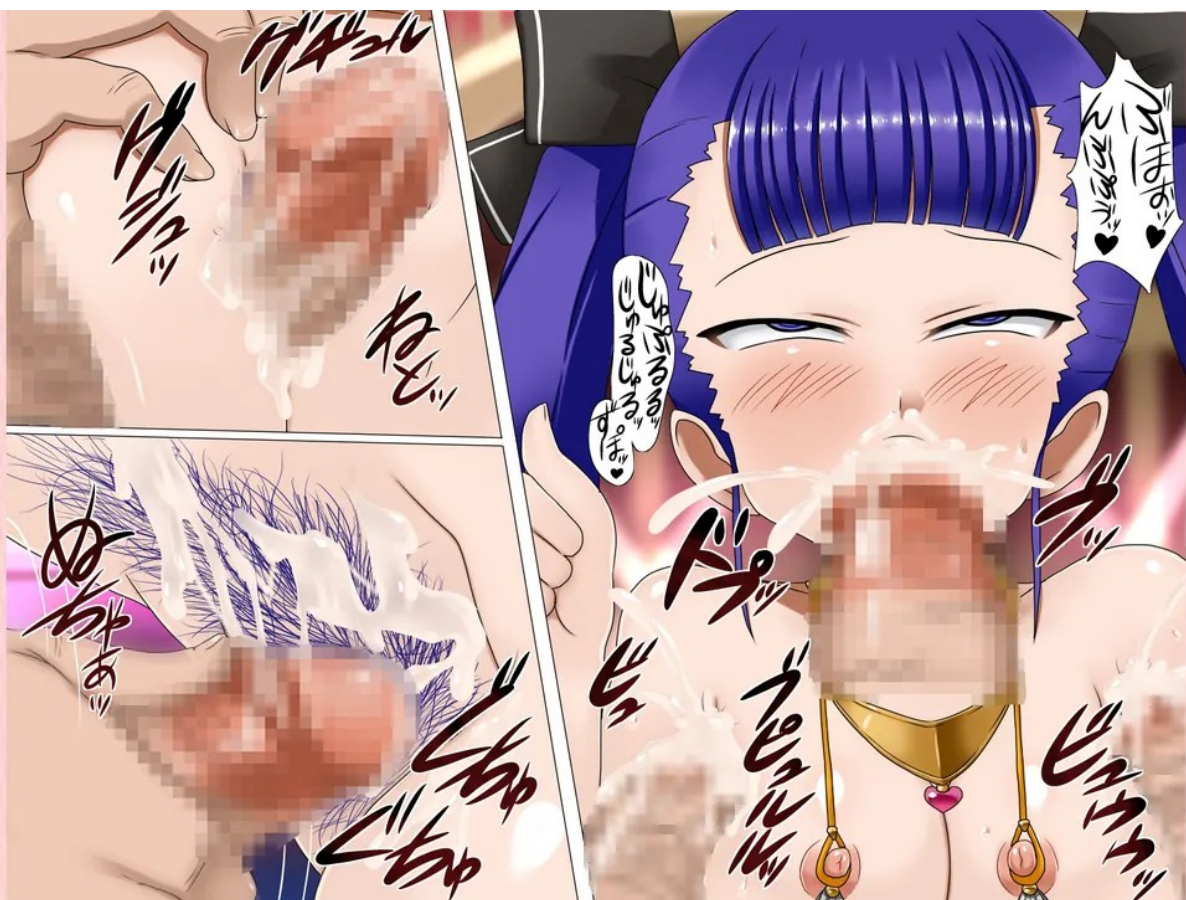
「チンポ、オーレあるう。」
「ははは、そんなにされたらおじさん
腰砕けちゃうよ。」

「おチンポにもサーブスしちゃうあるよ♥
ん〜チユツ♥チユツ♥」
「ぐふふ。鈴凛ちゃんはおじさんのおチンポ好きなのかな〜？」



「だいしゅきあるう〜♥鈴凛はおチンポなしでは
生きられないあるよ。フッフッ♥」
「ワキマンコにもおチンポハメしてくださいある♥」
「がはははッ!とんだ全身マンコ娘だな!」

「ぶほお！ひんぼ汁きたあるう♥
じゅほっ！じゅるじゅるじゅる♥
「おほお！こりゃたまらん！なんて淫乱な舌づかいだ。
一滴残らず絞り出されそうだわい！」



「はあ、はあ、鈴凛ちゃんのワキマンコ最高だよ。」
「んぶあ♥ワキマンコにもザーメンいっぱいあるう♥
体中オナホになったみたいあるう♥フッフッ♥」

「あひいいいいいいいッ♥チンポきたあるう♥
「ニ穴ハメ最高あるうッ♥
「ケツ穴でも喜ぶなんて、
どうしようもないスケベ豚だねえ。」



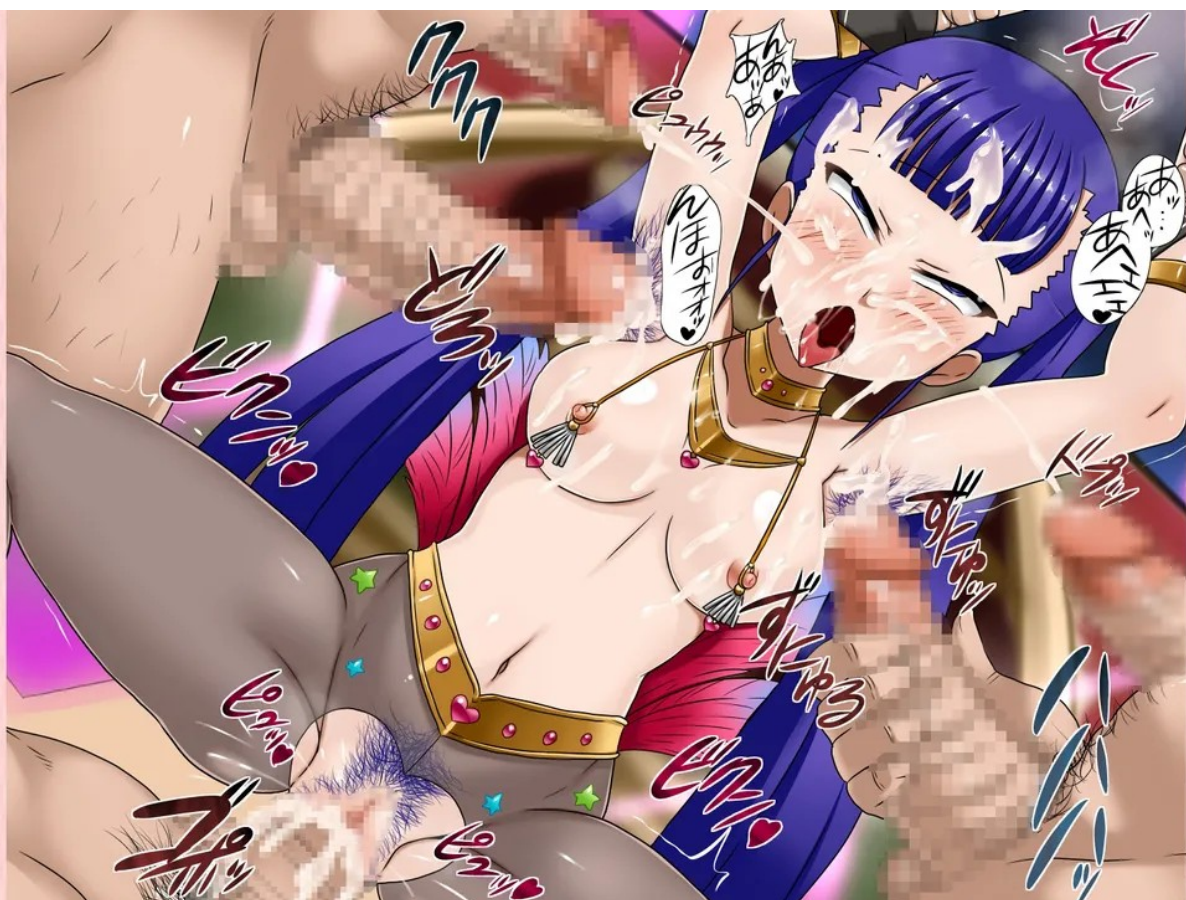
「あへえ♥チンポサンバ止まんないあるう♥
「まんこオッ♥あッ♥んはあッ♥あッ♥
「こらこら、激しすぎるよ鈴凛ちゃん。ぐふふ。」

「んっ♡♡♡♡♡ふっ♡♡♡♡♡はひひひひひひひひひひ♡♡♡♡♡」
「ふっ♡♡♡♡♡鈴凛ちゃんのおまんこサンバが情熱的すぎて♡♡♡♡♡」
「ほっ♡♡♡♡♡褒美の顔射だよ。」



「んはあ♡♡♡♡♡ザーメン嬉しいある♡♡♡♡♡フッフッフ」
「もつと、もつとザーメン欲しいある♡♡♡♡♡」
「じゃあオマンコサンバもつとおじさんと踊ろうね。」
「ムッフッフ。」
「はいある♡♡♡♡♡あっ♡♡♡♡♡はん♡♡♡♡♡ん♡♡♡♡♡」

「あへえ♥またイッちゃうあるう〜♥
「んほおおおおお〜♥」
「はは、おおおおお〜♥」
「どは、今度はワシがハメてやろう。」



「んあぁ♥おじさまおチンポいっぱい、
鈴凛しあわセあるう〜♥
朝までおチンポカーニバルあるよ♥フフッ」

「もう薬を使わなくてもこの有様ですからな、ヒヒヒ！」
「鈴凛おじさまの子供いっばい産んじゃうあるよ♥」
「これから♥も指名お願ひしますあるう♥」
「フフフツツ♥フフフツツ♥」



「あひい！またイッチャうある♥」
「ほらはら！イッ時はピースしなきゃ！」
「がはらはら！小便まで垂れ流しおって、」
「頭もマンコも緩みきっておるな。」